

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 山形県立村山産業高校 《学年》2年 《年齢》17歳

《氏名》 板垣哉人

《活動地域》 村山市

地域活動前の地域の印象

- 正直、村山市にはあまり魅力を感じていなかった。
- 何もない印象だった。

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- 気づかなかっただけで周りにも知られていないものがたくさんあり、前まで魅力を感じていなかったのはうまく伝えられていなかった体と思った。

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 地域の事だけでなく、自分達で作った商品をたくさんの人に売ったりするには工夫が必要だと言ったことが分かった。

地域活動後の地域の印象

- 村山市には魅力的でもっと多くの人に知られるべき食文化や歴史や物がたくさんあると思った。

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

- 事業の最初の方でお昼ご飯を自分達で作り、その時間を通してみんなが仲良くなることができたこと。

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- より多くの意見を出す話し合い方を学ぶこともできたので、部活などでも使っていきたいと思った。

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》山形県立村山産業高等学校 《学年》2年 《年齢》17歳

《氏名》佐藤 悠月 《活動地域》山形県村山市

地域活動前の地域の印象

質素。

景色がきれいな田舎。

徳内祭りが有名。

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

想像していたより隠れた魅力がたくさん存在していた。

地域の方が魅力とっていない魅力が多かった。

今ある魅力をもっと魅力あふれるものにする考え方もある。

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

ずっと住んでいる地域の人々の視点ではなく、その地域について知らない若者の方が様々な観点から魅力を発見することができる。

地域活動後の地域の印象

隠れた魅力がたくさんある所。

地域の方々が支え合って、魅力を最大限に活かそうとしている場所。

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

受入れをしてくださった大山さんの何気ない一言が私たちのインスピレーションを刺激し、イベントの発足までたどり着くことができたこと。

何気ないただの食事が皆の仲を含め、当たり前だと思っていたものが魅力だと知れたこと。

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

来年には高校3年生になり、課題研究も始まるためこの事業を通して見つけられた様々な魅力、仲間と意見を交換しともに最高のものを作る達成感をなどを胸に、積極的に様々な活動に参加して行きたい。

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 東北芸術工科大学 《学年》 4年生 《年齢》 21歳

《氏名》 高橋美咲 《活動地域》 山形県村山市

地域活動前の地域の印象

- 徳内まつりがある
- 薔薇園が有名
- 土地が広い
- LinkMURAYAMAがある
- イベントが盛んに行われている

有名なものはいくつか知っていたものの、それ以外の部分はあまり知らず、実際に暮らしの中にある日常的な雰囲気を感じてみたいと思った。

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

地域魅力発見＝実際に地域に入って、人と話して、身近なものに目を向けること

- 人・文化・食など、すでにあるもの同士をつなげて組み合わせることで、その地域らしさや魅力につながる
- 若者や外から来た人の視点が加わることで、地域の人自身も気づいていなかった価値が見つかる
- 魅力を見つけるために特別な専門性は必要なく、「面白そう」「楽しそう」と感じる素直な感覚が大切
- 興味や関心を持つこと自体が魅力発見の第一歩になる

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

若者みらい創造＝若者(学生)が地域や大人と出会い、関われる場を一緒に作っていくこと

- 強い使命感や専門性よりも「楽しそう」「やってみたい」という素直な気持ち
- 若者だけで完結するものではなく、地域の大人や多様な立場の人が関わることで、現実的で持続可能な形になっていく
- 一度の関わりがすぐに進路や生き方につながらなくても、地域で活動した経験が記憶として残ることに意味があると感じた。

地域活動後の地域の印象

- 高校生が活動的
- ひっぱりうどんの発祥地
- 過ごしやすそう
- また行きたい

実際に地域に入ってみると、村山市ではさまざまな活動が行われており、人の動きやつながりが感じられる地域だと知れた。自然が身近にありながらも不便すぎない「ちょうどいい田舎」という印象で、また訪れたいと思える場所になった。

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

・特別なものを新しく用意するのではなく、その場にある素材や文化を活かすことで、地域らしさを重視した企画をつくることができた。

・大学でコミュニティデザインを学び、実践してきた中で、自分自身が無意識のうちにハードルを上げてしまい、どこか堅苦しいものだと感じていた部分がありました。しかし実際には、気楽に、楽しみながら地域と関わることができるのだと気づくことができた。

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- ・当たり前だと思っていたもの、何気ない文化に目を向ける
- ・「面白そう」「組み合わせられそう」だと思うものを見つけたい
- ・地域とゆるくつながっていききたい

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 東北公益文科大学 《学年》 1年 《年齢》 19歳

《氏名》 原田 陽生 《活動地域》 山形県村山市

地域活動前の地域の印象

- わたしが生まれ育った地域であるため、感動や満足度は特別、変化はない。

→ 幼稚園から村山市に住んできた者として感じることは、「山がとても近く、緑が多い → 自然の中に溶け込んでいる。

… 最近、空き家利活用など地域に点在する資源をどのように活用していくか(イノベーション化)を積極的に取り組んでいる印象。

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- これまで日常的に見てきた“木”を、「資源に価値を見い出していく」という観点から見ることで

新たな価値を見い出して“新規性”を感じた

…メンバー間の親睦を深める(関係性の構築)ために、ひっぱりうどんを食べた際、県内でもそんなに知られていない、アレンジがしやすいなど、様々なワードが飛び交い、イベント化していく。

→この現象が、地域の魅力を発信していくうえで、とても重要なカギ

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 地域に若者が参入することで、既存資源を再考(再解釈)することで、地域住民がかつて活用してこなかった、気付かなかった、など新たな発見、未来を創造していくことにつながることを直感した。

…リフレクション・リプランニング(振り返り)を行った際に、若い人が発想を出し合うことで、企画設計の速度が速かった。

→これには、伊藤さんのような提唱者(導く人)や受け入れ環境が十分に備わっていないと、このような連動が起きなかった。

地域活動後の地域の印象

「“地域を知ること”を見直すきっかけになった」

… 村山市に長年、住んできた私でもひっぱりうどんやバラなどが若い人の力で、且つ短期間でイベントにつながるとは思ってもいなかった。

… 地域を持続的なものにするためには、地域内に踏みとどまらず地域外の方(特に学生などの若者)が参入することがとても大事。

※ 地域外の方は、受け入れる方にとっては「新参者」。まず、地域の環境に慣れる・溶け込む必要がある。

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

【第4回:リフレクション・リプランニング】

→ 活動を過去に取り組んできたことを振り返ることで、設計の具体化(再構築)がとても速かった。

ブレインストーミングやKJ法など、時間を無駄なく本質的なミーティングが自然に形成されていた。

… 事前に今までなにを行ってきたのかカタチにしていたのが、とてもよかった。

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- わたしは今、庄内地域で北前船を活用した振興事業に取り組んでいる。
今回の事業で...

振り返り(リフレクション)の大切さ、地域を継続的に且つ、イノベーションをしていくには、地域外の人や若い人の発想・意見を尊重していくことが大切だと感じた



意識していきたい！

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 村山産業高校

《学年》3年

《年齢》19

《氏名》 門間彩夏

《活動地域》 村山

地域活動前の地域の印象

- 遊び場が少ない
- 人が少ない
- 若者が立ち寄らない
- 農地がほとんど

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- ・コミュニティが密
- ・バラの加工が盛ん
- ・雄大な風景
- ・季節の音

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 企画の中心が若者であることで衆目を集めやすい
- 経験が浅いからこそその先入観がない視点で進められる

地域活動後の地域の印象

- 地域活動に参加したことで、住民同士のつながりの強さや温かな声掛けの大切さを実感した。
- 協力してより良くしようとする前向きな雰囲気を感じた。

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

作業を通して初めて会ったチームメイトと交流が生まれ、早く馴染むことができた。地域が人のつながりによって支えられていることを実感した。

些細なことから発想が生まれることを実感した。

本事業参加をどのように今後活かしていくか

本事業への参加で得た地域理解や人とのつながりを、今後の学習や進路選択に活かしたい。地域課題に主体的に関わる姿勢を持ち、これからも地域と協力しながら行動できる人材を目指していく。

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》山形県立村山産業高校 《学年》3年 《年齢》17歳

《氏名》山口 晃季

《活動地域》村山地域

地域活動前の地域の印象

- ・特徴があまりない。
- ・バラやジュンサイなどばかりで若い人向けの物はない。

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- どんなに小さいことも組み合わせることで魅力になる。
- 自分が魅力だと感じていないことも他の地域から見ると魅力になることが多々ある。
- 1つのものに絞らないことが大切。

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 地域の人との繋がりを作る必要性
- 若者ならではの視点から魅力を見つけて発信する
- 地域の魅力を自分で語れることが必要

地域活動後の地域の印象

- 意外と魅力はある
- こまごまと特徴的なものがある
- まだまだ魅力として発信できるものがある。

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

- ブレインストーミングの活用方法
- 仲を深めることの大切さ
- イベント等を運営する経験をするものの重要性

本事業参加をどのように今後活かしていくか

プロジェクトを通じて、これまで当たり前だと思っていた山形県の景色や産業が、実は唯一無二の価値を持つものであると再認識しました。

今回得た「地域の魅力を掘り起こす視点」を、就職先でのコミュニケーションや提案に活かしていきたいです。地域のことを深く知る努力を怠らず、仕事を通じてその良さを周囲に伝えていくことが、人口減少が続く山形において私にできる貢献の第一歩だと考えています。また、山形県が直面している人口減少という大きな課題についても、改めて深く考えさせられました。個人にできることは限られているかもしれませんが、まずは私自身が地域のファンであり続け、その魅力を周囲や次世代に発信し続けることが第一歩だと感じています。日々の生活の中で「自分に何ができるか」を常に自問自答し、仕事やプライベートを通じて、山形の活力を維持するための一助となれるよう行動していきたいです。

むらやま地域魅力発見 若者みらい創造事業 活動報告会

《大学/高校名》 山形大学 《学年》 4年 《年齢》 22歳

《氏名》 吉田周平 《活動地域》 村山地域

地域活動前の地域の印象

- 高齢の方が多く、若者が少ない
- 一部の観光資源や観光イベントのみが有名で、それ以外の部分はあまり認知されていない
- 自然豊かで、自然を活かした観光資源が多い

今回の事業の「地域魅力発見」に関する気づき

- その地域の歴史や文化など、バックグラウンドを知ってもらうことが地域の魅力を多くの人々に知ってもらう上で重要
- 魅力的な資源は既に存在すると感じたため、新たに資源を創出するのではなく、既存の資源をどのように外部にアピールしていくのかが重要になってくる

今回の事業の「若者みらい創造」に関する気づき

- 中高年層の方々だけではなく、高校生などの若年層でも、地域活動に積極的で地域を良くしようという熱量をもっている人が想像以上に存在する
- 高校や大学などの機関と行政機関、地域おこし協力隊の方々など様々な人々が協力することが、地域のみらいを創造する上で重要

地域活動後の地域の印象

- 地域は閉鎖的ではなく想像以上に開放的で、若者が本事業のように地域を良くしようと活動することを快く受け入れてくれる
- あまり有名ではない場所や文化であったとしても非常に魅力的で強力な観光資源になる可能性を秘めている

全8回 地域受入プログラムに参加して印象的だったこと

- 村山チームでどのようなイベントを行うかの話し合いの際に、メリハリをつけて物事を進めることが必ずしもいつも正しいとは限らず、雑談の流れでそのまま本題に入るなど、流れを崩さない方がスムーズに話が進みかつ、良いアイデアが生まれることもあるという体験

本事業参加をどのように今後に活かしていくか

- 2回のイベントの企画・実施の経験から、人的・金銭的資源が限られている中で、それらをどれだけ効率的に使用するか常に意識することが重要であることを学んだ。この意識は社会人になり業務をこなす上でも大切であるため、この意識を忘れずに社会に出てからも活かしていきたい